

札幌青葉鍼灸柔整専門学校

鍼灸学科夜間部 シラバス

(実務経験のある教員による授業)

鍼灸学科・夜間部・3年(関係法規)

科目名	関係法規	時間・単位	15時間・1単位・7.5コマ
担当教員	岸野 庸平		
教員の実務経験	鍼灸師として鍼灸治療院等で長年勤務した後、専任教員として従事する。		
教育目標	はり師、きゅう師として業務に従事するうえで、「あん摩マッサージ指圧師はり師、きゅう師等に関する法律」と、その業務と、医療従事者として必要な医事福祉関係法規を理解する。		
授業内容	法制度の沿革を通して鍼灸の現状を知り、医療従事者としての鍼灸師の法的位置づけを学び、今後、鍼灸師として業務にあたる際に必要な法制度を、臨床経験を持つ専任教員が鍼灸の現場経験を活かした視点でアドバイスをしながら、講義を行う。		
成績評価	<ul style="list-style-type: none"> ・授業への出席が3分の2以上を満たした者についてのみ試験等を実施する。 ・期末試験は授業時間内(原則として授業の最終日)に実施する。 ・再試験は授業時間外に実施する。 ・必要に応じて授業時間内、あるいは授業時間外に中間試験を実施することがある。 ・成績評価にあたっては、①試験等の成績、②出席状況、③授業の受講態度等を総合的に勘案した結果を基に判定する。 ・成績は以下の5段階で評価し、「可」以上を合格とする。 「秀」:90～100点 「優」:80～89点 「良」:70～79点 「可」:60～69点 「不可」:59点以下 		

教科書	配付資料	著者名	
		出版社名	
参考書	関係法規	著者名	東洋療法学校協会・医歯薬出版編
		出版社名	医歯薬出版

鍼灸学科・夜間部・3年(関係法規)

回	講義内容	備考
1	はり師、きゆう師などに関する法律(免許、試験、業務)	
2	医事法規と医療制度 医師法	
3	その他の医療従事者に関する法律	
4	薬事法	
5	衛生関係法規	
6	社会保険関係法規、関連医事用語の解説	
7	まとめ、練習問題	
7.5	期末試験	

鍼灸学科・夜間部・3年(社会保障および職業倫理)

科目名	社会保障および職業倫理	時間・単位	15時間・1単位・7.5コマ
担当教員	山口 澄江		
教員の実務経験	鍼灸師として鍼灸治療院等で長年勤務した後、専任教員として従事する。		
教育目標	医療概論と関係法規の内容を踏まえ、国家試験に向けての最新情報を知り、はり師、きゅう師として必要な医療倫理を身につけ、社会に貢献できる資質を育成する。		
授業内容	医療概論と関係法規の国家試験対策として最新の情報を四択問題を解きながら覚え、はり師、きゅう師として必要な医療保障や医療倫理、あはき法などを、鍼灸の現場経験を活かした視点でアドバイスをしながら講義を行う。		
成績評価	<ul style="list-style-type: none"> ・授業への出席が3分の2以上を満たした者についてのみ試験等を実施する。 ・期末試験は授業時間内(原則として授業の最終日)に実施する。 ・再試験は授業時間外に実施する。 ・必要に応じて授業時間内、あるいは授業時間外に中間試験を実施することがある。 ・成績評価にあたっては、①試験等の成績、②出席状況、③授業の受講態度等を総合的に勘案した結果を基に判定する。 ・成績は以下の5段階で評価し、「可」以上を合格とする。 「秀」:90～100点 「優」:80～89点 「良」:70～79点 「可」:60～69点 「不可」:59点以下 		

教科書	配布資料	著者名	
		出版社名	
参考書	医療概論・関係法規	著者名	中川米造監修・東洋療法学校協会・医歯薬出版編
		出版社名	医歯薬出版

鍼灸学科・夜間部・3年(社会保障および職業倫理)

回	講義内容	備考
0.5	医療概論の国試対策	
1.5	医療概論の国試対策	小テストあり
2.5	医療概論の国試対策	小テストあり
3.5	関係法規の国試対策	小テストあり
4.5	関係法規の国試対策	小テストあり
5.5	関係法規の国試対策	小テストあり
6.5	まとめ、練習問題	小テストあり
7.5	期末試験	

鍼灸学科・夜間部・3年(東洋医学臨床論Ⅳ)

科目名	東洋医学臨床論Ⅳ	時間・単位	30時間・2単位・15コマ
担当教員	松岡 晋也		
教員の実務経験	鍼灸師として鍼灸治療院等で長年勤務した後、専任教員として従事する。		
教育目標	国家試験における東洋医学概論・東洋医学臨床論の総復習並びに、それらの問題を解答する過程で東洋医学の知識を多用する問題の得点率を引き上げることが目的とする。		
授業内容	臨床現場で培った経験を基に具体的な経験談などアドバイスをし、東洋医学理論の基礎である陰陽・五行・精気血津液の諸学説及び蔵象・病因論・病理病証・診断論・治療論並びに臨床の複合問題を総復習を行う。		
成績評価	<ul style="list-style-type: none"> ・授業への出席が3分の2以上を満たした者についてのみ試験等を実施する。 ・期末試験は授業時間内(原則として授業の最終日)に実施する。 ・再試験は授業時間外に実施する。 ・必要に応じて授業時間内、あるいは授業時間外に中間試験を実施することがある。 ・成績評価にあたっては、①試験等の成績、②出席状況、③授業の受講態度等を総合的に勘案した結果を基に判定する。 ・小テストを実施し成績に加味する。 ・成績は以下の5段階で評価し、「可」以上を合格とする。 「秀」:90～100点 「優」:80～89点 「良」:70～79点 「可」:60～69点 「不可」:59点以下 		

教科書	東洋医学概論	著者名	教科書執筆小委員会
		出版社名	医道の日本社
参考書	図解鍼灸技術ガイドⅠ・Ⅱ 鍼灸臨床の場で必ず役立つ 実践のすべて	著者名	編集主幹 矢野忠
		出版社名	文光堂

鍼灸学科・夜間部・3年(東洋医学臨床論Ⅳ)

回	講義内容	備考
1	生体物質(精・気・血・津液)	
2	蔵象①	
3	蔵象②	
4	病因	小テスト
5	陰陽・五行学説	
6	四診	
7	弁証論治	
8	中間テスト	1～7回
9	東洋医学臨床論①	各疾患の弁証論治
10	東洋医学臨床論②	各疾患の弁証論治
11	東洋医学臨床論③	各疾患の弁証論治 小テスト
12	東洋医学臨床論④	各疾患の弁証論治
13	東洋医学臨床論⑤	各疾患の弁証論治
14	まとめ	
15	期末テスト	1～14回

鍼灸学科・夜間部・3年(東洋医学臨床応用)

科目名	東洋医学臨床応用	時間・単位	30時間・2単位・15コマ
担当教員	松永 満		
教員の実務経験	鍼灸師として鍼灸治療院等で長年勤務した後、専任教員として従事する。		
教育目標	現代医学的な考えとは、現代医学の知識・技術などを鍼灸の診察、治療に応用しようとする考え方である。現代医学的な考え方をもとに鍼灸治療の対象となる疾患について、病態、症状、所見、治療方針を学習し、必要な診察法の過程に主要な徒手検査法を学び、適切な鍼灸治療を行うための知識を習得させることを教育目標とする。		
授業内容	臨床経験を持つ専任教員が、現場経験を活かした視点で主に、治療と診断、症候に対する東西両医学からのアプローチ、疾患に対する東西両医学からのアプローチ 高齢者に対する鍼灸施術、スポーツ領域における鍼灸施術について学んでいく。		
成績評価	<ul style="list-style-type: none"> ・授業への出席が3分の2以上を満たした者についてのみ試験等を実施する。 ・期末試験は授業時間内(原則として授業の最終日)に実施する。 ・再試験は授業時間外に実施する。 ・必要に応じて授業時間内、あるいは授業時間外に中間試験を実施することがある。 ・成績評価にあたっては、①試験等の成績、②出席状況、③授業の受講態度等を総合的に勘案した結果を基に判定する。 ・成績は以下の5段階で評価し、「可」以上を合格とする。 「秀」:90～100点 「優」:80～89点 「良」:70～79点 「可」:60～69点 「不可」:59点以下 		

教科書	東洋医学臨床論(はりきゅう編)	著者名	東洋療法学校協会
		出版社名	医道の日本社
参考書		著者名	
		出版社名	

鍼灸学科・夜間部・3年(東洋医学臨床応用)

回	講義内容	備考
1	神経・筋疾患①	
2	神経・筋疾患②	
3	神経・筋疾患③	
4	運動器疾患①	
5	運動器疾患②	
6	運動器疾患③	
7	中間試験	
8	スポーツ障害①	
9	スポーツ障害②	
10	呼吸器疾患、循環器疾患	
11	消化器疾患、腎・泌尿器疾患	
12	婦人科疾患、耳鼻咽喉疾患、老年医学	
13	診断と治療、その他の疾患、検査法	
14	期末試験	
15	まとめ	

鍼灸学科・夜間部・3年(病態生理学)

科目名	病態生理学	時間・単位	30時間・1単位・15コマ
担当教員	飯塚 正		
教員の実務経験	歯科医師として大学院等で長年勤務。非常勤講師として従事する。		
教育目標	2年生終了時までの間に学習した、病理学等の基礎医学について、再度学習し、基礎医学に関する知識を確かなものにするを教育目標とする。		
授業内容	病理学概論を中心とした病因や病態について復習するとともに、多くの練習問題などを活用し実践的に知識の再確認を行う。		
成績評価	<ul style="list-style-type: none"> ・授業への出席が3分の2以上を満たした者についてのみ試験等を実施する。 ・期末試験は授業時間内(原則として授業の最終日)に実施する。 ・再試験は授業時間外に実施する。 ・必要に応じて授業時間内、あるいは授業時間外に中間試験や小試験などを実施することがある。 ・成績評価にあたっては、①試験等の成績、②出席状況、③授業の受講態度等を総合的に勘案した結果を基に判定する。 ・成績は以下の5段階で評価し、「可」以上を合格とする。 「秀」:90～100点 「優」:80～89点 「良」:70～79点 「可」:60～69点 「不可」:59点以下 		

教科書	病理学概論、プリント	著者名	東洋療法学校協会
		出版社名	医歯薬出版
参考書		著者名	
		出版社名	

鍼灸学科・夜間部・3年(病態生理学)

回	講義内容	備考
1	病因、退行性病変1	
2	循環障害、進行性病変1	
3	炎症、免疫1	
4	腫瘍、先天性疾患1	
5	まとめ試験1	
6	病因、退行性病変2	
7	循環障害、進行性病変2	
8	炎症、免疫2	
9	腫瘍、先天性疾患2	
10	まとめ試験2	
11	病因、退行性病変3	
12	循環障害、進行性病変3	
13	炎症、免疫3	
14	腫瘍、先天性疾患3	
15	まとめ試験3(終)	

鍼灸学科・夜間部・3年(社会はりきゅう学)

科目名	社会はりきゅう学	時間・単位	30時間・2単位・15コマ
担当教員	松永 満		
教員の実務経験	鍼灸師として鍼灸治療院等で長年勤務した後、専任教員として従事する。		
教育目標	はりきゅう理論Ⅰ・はりきゅう理論Ⅱを踏まえ、鍼灸臨床での用具、手技、作用機序及び人体の生理学等について更なる理解力と応用力を身につける。		
授業内容	臨床経験を持つ専任教員が、現場経験を活かした視点で過去に出題された「はり理論」と「きゅう理論」の国家試験問題等を活用し、より一層の理解を計る。		
成績評価	<ul style="list-style-type: none"> ・授業への出席が3分の2以上を満した者についてのみ試験等を実施する。 ・期末試験は授業時間内(原則として授業の最終日)に実施する。 ・再試験は授業時間外に実施する。 ・必要に応じて授業時間内、あるいは授業時間外に中間試験を実施することがある。 ・成績評価にあたっては、①試験等の成績、②出席状況、③授業の受講態度等を総合的に勘案した結果を基に判定する。 ・成績は以下の5段階で評価し、「可」以上を合格とする。 「秀」:90～100点 「優」:80～89点 「良」:70～79点 「可」:60～69点 「不可」:59点以下 		

教科書	はりきゅう理論	著者名	東洋療法学校協会
		出版社名	医道の日本社
参考書		著者名	
		出版社名	

鍼灸学科・夜間部・3年(社会はりきゅう学)

回	講義内容	備考
1	鍼の基礎知識	
2	刺鍼の方式と術式	
3	特殊鍼法	
4	灸の基礎知識	
5	灸術の種類	
6	鍼灸の臨床応用、リスク管理	
7	中間試験	
8	鍼灸治効の基礎	
9	鍼灸治効の基礎	
10	鍼灸療法の一般治効理論	
11	鍼灸療法の一般治効理論	
12	関連学説	
13	関連学説	
14	期末試験	
15	まとめ	

鍼灸学科・夜間部・3年(臨床実技Ⅰ)

科目名	臨床実技Ⅰ	時間・単位	1単位・45時間(22.5コマ)
担当教員	北林 亜由美		
教員の実務経験	鍼灸師として鍼灸治療院等で長年勤務した後、専任教員として従事する。		
教育目標	実際の臨床において、遭遇しやすい症状を取り上げて、現代鍼灸の立場から、身体の観察方法を理解し、鍼灸治療の論拠を示し、各疾患の現代医学的治療を理解し、適切な鍼灸治療法を体得する。		
授業内容	レディース鍼灸の中でも、月経異常や不妊症など女性特有の症状や美容鍼灸について重点的に学び、鍼灸の現場経験を活かした視点でアドバイスをしながら、実践的な知識および技術を習得させる。		
成績評価	<ul style="list-style-type: none"> ・授業への出席が3分の2以上を満たした者についてのみ試験等を実施する。 ・期末試験は授業時間内(原則として授業の最終日)に実施する。 ・再試験は授業時間外に実施する。 ・必要に応じて授業時間内、あるいは授業時間外に中間試験を実施することがある。 ・成績評価にあたっては、①試験等の成績、②出席状況、③授業の受講態度等を総合的に勘案した結果を基に判定する。 ・成績は以下の5段階で評価し、「可」以上を合格とする。 「秀」:90～100点 「優」:80～89点 「良」:70～79点 「可」:60～69点 「不可」:59点以下 		

教科書	鍼灸療法技術ガイドⅠ・Ⅱ	著者名	矢野 忠
		出版社名	文光堂
参考書	レディース鍼灸	著者名	矢野 忠
		出版社名	医歯薬出版株式会社

鍼灸学科・夜間部・3年(臨床実技Ⅰ)

回	講義内容	備考
1	ROM、皮膚分節、知覚検査	
2	深部腱反射、病的反射、MMT	
3	TOSの概要、検査、TOSの治療	
4	手根管、肘部管、Guyon管症候群	
5	思春期のマイナートラブル	
6	思春期のマイナートラブル	
7	性成熟期のマイナートラブル	
8	性成熟期のマイナートラブル	
9	妊娠期のマイナートラブル	
10	妊娠期のマイナートラブル	
11	更年期・老年期のマイナートラブル	
12	更年期・老年期のマイナートラブル	
13	神経痛	
14	顎関節症、眼精疲労	
15	美容鍼灸	
16	美容鍼灸	
17	治療のまとめ①	
18	治療のまとめ②	
19	期末試験	
20	期末試験	
21	期末試験	
22	期末試験	
22.5	総括	

鍼灸学科・夜間部・3年(臨床実技Ⅱ)

科目名	臨床実技Ⅱ	時間・単位	45時間・1単位・22.5コマ
担当教員	長谷川 直子		
教員の実務経験	鍼灸師として鍼灸治療院等で長年勤務した後、専任教員として従事する。		
教育目標	スポーツ領域の愁訴を現代鍼灸の立場から把握することを目的とする。そのために、身体の観察方法を理解し、鍼灸治療の論拠を示し、各疾患の現代医学的治療を理解し、適切な鍼灸治療法を体得する。		
授業内容	主に、以下の点について学んでいく。 ①スポーツ傷害・障害などのスポーツ特有の症状を理解する。②スポーツ領域の愁訴を現代医学的に把握する。 について、鍼灸の現場経験を活かした視点でアドバイスをしながら、実践的な知識および技術を習得させる。		
成績評価	<ul style="list-style-type: none"> ・授業への出席が3分の2以上を満たした者についてのみ試験等を実施する。 ・期末試験は授業時間内(原則として授業の最終日)に実施する。 ・再試験は授業時間外に実施する。 ・必要に応じて授業時間内、あるいは授業時間外に中間試験を実施することがある。 ・成績評価にあたっては、①試験等の成績、②出席状況、③授業の受講態度等を総合的に勘案した結果を基に判定する。 ・成績は以下の5段階で評価し、「可」以上を合格とする。 「秀」:90～100点 「優」:80～89点 「良」:70～79点 「可」:60～69点 「不可」:59点以下 		

教科書	鍼灸療法技術ガイドⅠ・Ⅱ	著者名	矢野 忠
		出版社名	文光堂
参考書		著者名	
		出版社名	

鍼灸学科・夜間部・3年(臨床実技Ⅱ)

回	講義内容	備考
1	スポーツ傷害に対する治療方針	
2	野球肩の診察	
3	上腕骨外側上顆炎の診察	
4	上腕骨内側上顆炎の診察	
5	肉離れ(大腿後面)の診察	
6	運動性腰痛の診察	
7	頸部椎間板ヘルニアの診察	
8	腰部椎間板ヘルニアの診察	
9	膝靭帯損傷の診察	
10	ジャンパー膝(膝蓋腱炎)の診察	
11	ランナー膝(腸脛靭帯炎)の診察	
12	鷲足炎の診察	
13	シンスプリント(脛骨過労性骨膜炎)の診察	
14	オスグッド病の診察	
15	アキレス腱炎の診察	
16	足底筋膜炎の診察	
17	足関節捻挫の診察	
18	スポーツ疾患まとめ①	
19	スポーツ疾患まとめ②	
20	スポーツ疾患まとめ③	
21	期末試験	
22	期末試験	
22.5	期末試験	

鍼灸学科・夜間部・3年(臨床実技Ⅲ)

科目名	臨床実技Ⅲ	時間・単位	45時間・1単位・22.5コマ
担当教員	伊藤 才二		
教員の実務経験	鍼灸師として鍼灸治療院等で長年勤務した後、専任教員として従事する。		
教育目標	スポーツ領域の愁訴を現代鍼灸の立場から把握することを目的とする。そのために、身体の観察方法を理解し、鍼灸治療の論拠を示し、各疾患の現代医学的治療を理解し、適切な鍼灸治療法を体得する。		
授業内容	主に、以下の点について学んでいく。 ①スポーツ傷害・障害などのスポーツ特有の症状を理解する。②スポーツ領域の愁訴を現代医学的に把握する。 について、鍼灸の現場経験を活かした視点でアドバイスをしながら、実践的な知識および技術を習得させる。		
成績評価	<ul style="list-style-type: none"> ・授業への出席が3分の2以上を満たした者についてのみ試験等を実施する。 ・期末試験は授業時間内(原則として授業の最終日)に実施する。 ・再試験は授業時間外に実施する。 ・必要に応じて授業時間内、あるいは授業時間外に中間試験を実施することがある。 ・成績評価にあたっては、①試験等の成績、②出席状況、③授業の受講態度等を総合的に勘案した結果を基に判定する。 ・成績は以下の5段階で評価し、「可」以上を合格とする。 「秀」:90～100点 「優」:80～89点 「良」:70～79点 「可」:60～69点 「不可」:59点以下 		

教科書		著者名	
		出版社名	
参考書	鍼灸療法技術ガイド	著者名	矢野 忠
		出版社名	文光堂

鍼灸学科・夜間部・3年(臨床実技Ⅲ)

回	講義内容	備考
1	スポーツ傷害に対する治療方針	
2	野球肩の診察	
3	上腕骨外側上顆炎の診察	
4	上腕骨内側上顆炎の診察	
5	肉離れ(大腿後面)の診察	
6	運動性腰痛の診察	
7	頸部椎間板ヘルニアの診察	
8	腰部椎間板ヘルニアの診察	
9	膝靭帯損傷の診察	
10	ジャンパー膝(膝蓋腱炎)の診察	
11	ランナー膝(腸脛靭帯炎)の診察	
12	鷲足炎の診察	
13	シンスプリント(脛骨過労性骨膜炎)の診察	
14	オスグッド病の診察	
15	アキレス腱炎の診察	
16	足底筋膜炎の診察	
17	足関節捻挫の診察	
18	スポーツ疾患まとめ①	
19	スポーツ疾患まとめ②	
20	スポーツ疾患まとめ③	
21	期末試験①	
22	期末試験②	
22.5	期末試験③	

鍼灸学科・夜間部・3年(臨床実技Ⅳ)

科目名	臨床実技Ⅳ	時間・単位	45時間・1単位・22.5コマ
担当教員	山口 澄江		
教員の実務経験	鍼灸師として鍼灸治療院等で長年勤務した後、専任教員として従事する。		
教育目標	<p>現代鍼灸の立場から、身体の観察方法を理解し、鍼灸治療の論拠を示し、各疾患の現代医学的治療を理解し、適切な鍼灸治療法を体得する。高齢者に多い疾患の後遺症、筋力低下による歩行速度低下など老年特有の症状、各疾患の鑑別に必要な理学所見を復習し、最終的には、模擬患者に対し医療面接の中で所見を取り、疾患を鑑別し、適切な治療方法を選択し、施術ができることを目標とする。</p> <p>また、常に治療前後での主訴の変化(指標の変化)を意識して行う。鍼灸初療者、高齢者に対する対応ができるようにする。</p>		
授業内容	<p>高齢や身体が不自由な方のケアなどを担当教員が鍼灸の現場経験を活かした視点でアドバイスをしながら、実践的な知識および技術を習得していく。</p> <p>臨床現場に出た際に即戦力となる授業を行う。</p>		
成績評価	<ul style="list-style-type: none"> ・授業への出席が3分の2以上を満たした者についてのみ試験等を実施する。 ・期末試験は授業時間内(原則として授業の最終日)に実施する。 ・再試験は授業時間外に実施する。 ・必要に応じて授業時間内、あるいは授業時間外に中間試験を実施することがある。 ・成績評価にあたっては、①試験等の成績、②出席状況、③授業の受講態度等を総合的に勘案した結果を基に判定する。 ・成績は以下の5段階で評価し、「可」以上を合格とする。 「秀」:90～100点 「優」:80～89点 「良」:70～79点 「可」:60～69点 「不可」:59点以下 		

教科書	配布資料	著者名	
		出版社名	
参考書		著者名	
		出版社名	

鍼灸学科・夜間部・3年(臨床実技Ⅳ)

回	講義内容	備考
1	頭痛①	
2	頭痛②	
3	めまい	
4	耳鳴り・難聴	
5	肩こり	
6	脳卒中後遺症	
7	便秘	
8	下痢	
9	運動器疾患①	
10	中間試験練習	
11	中間試験①	
12	中間試験①	
13	運動器疾患②	
14	排尿障害	
15	認知症	
16	パーキンソン病	
17	皮膚疾患	
18	期末試験練習	
19	期末試験①	
20	期末試験②	
21	治療まとめ	
22	治療まとめ	
22.5	治療まとめ	

鍼灸学科・夜間部・3年(総合実技Ⅱ)

科目名	総合実技Ⅱ	時間・単位	45時間・1単位・22.5コマ
担当教員	松永 満・岸野 庸平		
教員の実務経験	鍼灸師として鍼灸治療院等で長年勤務した後、専任教員として従事する。		
教育目標	臨床現場で実際に使われている手技や治療機器等を理解、実践することにより、鍼灸治療に必要な技術向上を図る。		
授業内容	手技療法や超音波治療など臨床現場で卒業後必要とされる知識を身につける。鍼灸の現場経験を活かした視点でアドバイスをしながら、実践的な知識および技術を習得していく。		
成績評価	<ul style="list-style-type: none"> ・総合実技Ⅱ①と②それぞれの授業への出席が3分の2以上を満たした者についてのみ試験等を実施する。 ・期末試験は授業時間内(原則として授業の最終日)に実施する。 ・再試験は授業時間外に実施する。 ・必要に応じて授業時間内、あるいは授業時間外に中間試験を実施することがある。 ・成績評価にあたっては、①出席状況、②授業の受講態度等を総合的に勘案した結果を基に判定する。 ・成績は以下の5段階で評価し、「可」以上を合格とする。 「秀」:90～100点 「優」:80～89点 「良」:70～79点 「可」:60～69点 「不可」:59点以下 		

教科書	著者名	
	出版社名	
参考書	著者名	
	出版社名	

鍼灸学科・夜間部・3年(総合実技Ⅱ)

回	講義内容	備考
1	手技療法の基礎1	
2	手技療法の基礎2	
3	手技療法の基礎3	
4	手技療法の基礎4	
5	手技療法の基礎5	
6	手技療法の基礎6	
7	手技療法の応用1	
8	手技療法の応用2	
9	手技療法と鍼灸治療について	
10	手技療法と鍼灸治療について	
11	低周波治療器の使い方と効果	
12	干渉派治療器の使い方と効果	
13	SSPの使い方と効果	
14	頸椎牽引機の使い方と効果	
15	腰椎牽引機の使い方と効果	
16	超音波の使い方と効果	
17	超音波の使い方と効果	
18	マイクロ波の使い方と効果、注意点	
19	罨法療法	
20	足関節の包帯の巻き方	
21	膝の包帯の巻き方	
22	物理療法の復習	
22.5	まとめ	

鍼灸学科・夜間部・3年(総合実技Ⅲ)

科目名	総合実技Ⅲ	時間・単位	45時間・1単位・22.5コマ
担当教員	山口 澄江		
教員の実務経験	鍼灸師として鍼灸治療院等で長年勤務した後、専任教員として従事する。		
教育目標	近年国家試験では、「東洋医学概論」「東洋医学臨床論」「経絡経穴学概論」にて経穴名ではなく、取穴部位、または取り方にて出題される傾向にある。そこで実際に正経十二経取穴・刺鍼・施灸を行い、取穴部位・取り方を習得する。		
授業内容	担当教員が臨床現場で培った経験を基に具体的にアドバイスをし、以下の項目について授業を行う。 1. 正経十二経の取穴 2. 正経十二経の刺鍼・施灸		
成績評価	<ul style="list-style-type: none"> ・授業への出席が3分の2以上を満たした者についてのみ試験等を実施する。 ・期末試験は授業時間内(原則として授業の最終日)に実施する。 ・再試験は授業時間外に実施する。 ・必要に応じて授業時間内、あるいは授業時間外に中間試験を実施することがある。 ・成績評価にあたっては、①試験等の成績、②出席状況、③授業の受講態度等を総合的に勘案した結果を基に判定する。 ・成績は以下の5段階で評価し、「可」以上を合格とする。 「秀」:90～100点 「優」:80～89点 「良」:70～79点 「可」:60～69点 「不可」:59点以下 		

教科書	経絡経穴概論	著者名	教科書執筆小委員会
		出版社名	医道の日本社
参考書		著者名	
		出版社名	

鍼灸学科・夜間部・3年(総合実技Ⅲ)

回	講義内容	備考
1	手太陰肺経・手少陰心経の部位・筋肉・神経・作用	
2	手陽明大腸経の部位・筋肉・神経・作用	1回目口頭試問
3	足陽明胃経の部位・筋肉・神経・作用	2回目口頭試問
4	足陽明胃経の部位・筋肉・神経・作用	3回目口頭試問
5	足太陰脾経の部位・筋肉・神経・作用	4回目口頭試問
6	手太陽小腸経の部位・筋肉・神経・作用	5回目口頭試問
7	足太陽膀胱経の部位・筋肉・神経・作用	6回目口頭試問
8	足太陽膀胱経の部位・筋肉・神経・作用	7回目口頭試問
9	足太陽膀胱経の部位・筋肉・神経・作用	8回目口頭試問
10	中間試験	
11	中間試験	
12	足少陰腎経の部位・筋肉・神経・作用	9回目口頭試問
13	手厥陰心包経・足厥陰肝経の部位・筋肉・神経・作用	12回目口頭試問
14	手少陽三焦経の部位・筋肉・神経・作用	13回目口頭試問
15	足少陽胆経の部位・筋肉・神経・作用	14回目口頭試問
16	足少陽胆経の部位・筋肉・神経・作用	15回目口頭試問
17	督脈の部位・筋肉・神経・作用	16回目口頭試問
18	任脈の部位・筋肉・神経・作用	17回目口頭試問
19	試験練習	18回目口頭試問
20	試験練習	
21	期末試験	
22	期末試験	
22.5	総括	

鍼灸学科・夜間部・3年(総合実技Ⅲ)

科目名	臨床実習Ⅲ	時間・単位	45時間・1単位・30コマ
担当教員	鍼灸学科全教員		
教員の実務経験	鍼灸師として鍼灸治療院等で長年勤務した後、専任教員として従事する。		
教育目標	<ol style="list-style-type: none"> 1. 既習の「基礎実習」「臨床医学各論」「東洋医学臨床論」等の知識と技術を総合して実際に外来患者を取り扱うことにより、診察・治療の方法を学習する。 2. 施術におけるリスク管理の徹底を図る。 3. 施術計画と施術の実際及び施術後の評価と問題のある症例に対する再検討。 4. 日常遭遇することの多い疾患の診察・施術パターンを身につけさせる。 		
授業内容	<p>臨床経験を持つ専任教員が、現場経験を活かした視点でアドバイスをしながら、主に、カルテの記載、臨床記録の記入、外来患者または模擬患者の問診、触診、各種理学検査の実際を通して病体の現す種々な情報を把握できるようにする。また原因の推定と予後の判定、鍼灸施術の計画(選穴、鍼・灸の手技)、鍼灸施術の準備、消毒の実際、担当教官の指導の元に鍼灸施術の実習を行う。日常多く遭遇する症例については、治療パターンが定着できるようにする。</p>		
成績評価	<ul style="list-style-type: none"> ・授業への出席が3分の2以上を満たした者についてのみ試験等を実施する。 ・期末試験は授業時間内(原則として授業の最終日)に実施する。 ・再試験は授業時間外に実施する。 ・必要に応じて授業時間内、あるいは授業時間外に中間試験を実施することがある。 ・成績評価にあたっては、①試験等の成績、②出席状況、③授業の受講態度等を総合的に勘案した結果を基に判定する。 ・成績は以下の5段階で評価し、「可」以上を合格とする。 「秀」:90～100点 「優」:80～89点 「良」:70～79点 「可」:60～69点 「不可」:59点以下 		

教科書	図解鍼灸療法技術ガイドⅠ・Ⅱ	著者名	矢野 忠
		出版社名	文光堂
参考書		著者名	
		出版社名	

鍼灸学科・夜間部・3年(臨床実習Ⅲ)

回	講義内容	備考
1	オリエンテーション	
2	オリエンテーション	
3	臨床実践	
4	臨床実践	
5	臨床実践	
6	臨床実践	
7	臨床実践	
8	臨床実践	
9	臨床実践	
10	臨床実践	
11	臨床実践	
12	臨床実践	
13	臨床実践	
14	臨床実践	
15	臨床実践	
16	臨床実践	
17	臨床実践	
18	臨床実践	
19	臨床実践	
20	臨床実践	
21	臨床実践	
22	臨床実践	
23	臨床実践	
24	臨床実践	
25	臨床実践	
26	臨床実践	
27	臨床実践	
28	臨床実践	
29	臨床実践	
30	臨床実践	

鍼灸学科・夜間部・3年(臨床実習Ⅳ)

科目名	臨床実習Ⅳ	時間・単位	45時間・1単位・30コマ
担当教員	鍼灸学科全教員		
教員の実務経験	鍼灸師として鍼灸治療院等で長年勤務した後、専任教員として従事する。		
教育目標	<ol style="list-style-type: none"> 1. 既習の「基礎実習」「臨床医学各論」「東洋医学臨床論」等の知識と技術を総合して実際に外来患者を取り扱うことにより、診察・治療の方法を学習する。 2. 施術におけるリスク管理の徹底を図る。 3. 施術計画と施術の実際及び施術後の評価と問題のある症例に対する再検討。 4. 日常遭遇することの多い疾患の診察・施術パターンを身につけさせる。 		
授業内容	<p>臨床経験を持つ専任教員が、現場経験を活かした視点でアドバイスをしながら、主に、カルテの記載、臨床記録の記入、外来患者または模擬患者の問診、触診、各種理学検査の実際を通して病体の現す種々な情報を把握できるようにする。また原因の推定と予後の判定、鍼灸施術の計画(選穴、鍼・灸の手技)、鍼灸施術の準備、消毒の実際、担当教官の指導の元に鍼灸施術の実習を行う。日常多く遭遇する症例については、治療パターンが定着できるようにする。</p>		
成績評価	<ul style="list-style-type: none"> ・授業への出席が3分の2以上を満たした者についてのみ試験等を実施する。 ・期末試験は授業時間内(原則として授業の最終日)に実施する。 ・再試験は授業時間外に実施する。 ・必要に応じて授業時間内、あるいは授業時間外に中間試験を実施することがある。 ・成績評価にあたっては、①試験等の成績、②出席状況、③授業の受講態度等を総合的に勘案した結果を基に判定する。 ・成績は以下の5段階で評価し、「可」以上を合格とする。 「秀」:90～100点 「優」:80～89点 「良」:70～79点 「可」:60～69点 「不可」:59点以下 		

教科書	図解鍼灸療法技術ガイドⅠ・Ⅱ	著者名	矢野 忠
		出版社名	文光堂
参考書		著者名	
		出版社名	

鍼灸学科・夜間部・3年(臨床実習Ⅳ)

回	講義内容	備考
1	臨床実践	
2	臨床実践	
3	臨床実践	
4	臨床実践	
5	臨床実践	
6	臨床実践	
7	臨床実践	
8	臨床実践	
9	臨床実践	
10	臨床実践	
11	臨床実践	
12	臨床実践	
13	臨床実践	
14	臨床実践	
15	臨床実践	
16	臨床実践	
17	臨床実践	
18	臨床実践	
19	臨床実践	
20	臨床実践	
21	臨床実践	
22	臨床実践	
23	臨床実践	
24	臨床実践	
25	臨床実践	
26	臨床実践	
27	臨床実践	
28	臨床実践	
29	臨床実践	
30	臨床実践	

鍼灸学科・夜間部・3年(総合領域Ⅲ)

科目名	総合領域Ⅲ	時間・単位	60時間・2単位・30コマ
担当教員	北林 亜由美・松岡 晋也・岸野 庸平		
教員の実務経験	鍼灸師として鍼灸治療院等で長年勤務した後、専任教員として従事する。		
教育目標	専門基礎分野および専門分野の総復習をし、 国家試験の合格に必要な知識を習得する事を目的とする。		
授業内容	担当教員が臨床現場で培った経験を基に具体的にアドバイスをし、以下の項目について授業を行う。 ・総合領域Ⅲ①:臨床医学総論・臨床医学各論 ・総合領域Ⅲ②:東洋医学概論・東洋医学臨床論		
成績評価	<ul style="list-style-type: none"> ・総合領域Ⅲ①と②のそれぞれの授業への出席が3分の2以上を満たした者についてのみ試験等を実施する。 ・期末試験は授業時間内(原則として授業の最終日)に実施する。 ・再試験は授業時間外に実施する。 ・必要に応じて授業時間内、あるいは授業時間外に中間試験を実施することがある。 ・成績評価にあたっては、①試験等の成績、②出席状況、③授業の受講態度等を総合的に勘案した結果を基に判定する。 ・それぞれ担当の教員において60点以上を合格とする。 ・成績は以下の5段階で評価し、「可」以上を合格とする。 「秀」:90~100点 「優」:80~89点 「良」:70~79点 「可」:60~69点 「不可」:59点以下 		
教科書	臨床医学総論 臨床医学各論	著者名	奈良信雄 他 教科書執筆小委員会
	東洋医学概論	出版社名	医歯薬出版株式会社 医道の日本社
参考書	鍼灸療法技術ガイドⅠ・Ⅱ	著者名	矢野忠
		出版社名	文光堂

鍼灸学科・夜間部・3年(総合領域Ⅲ)

回	講義内容①	回	講義内容②	備考
1	合同模試①	1	気血津液弁証	
2	合同模試①	2	臓腑弁証	
3	合同模試①解説	3	六経弁証	小テスト
4	診察の概要と方法・生命徴候・全身の診察	4	古代刺法・難経六十九難	
5	局所の診察	5	治法	
6	神経系の診察	6	中間試験	1～5回
7	運動機能検査・その他の領域・臨床検査法	7	十二経脈病証①	
8	おもな症状の診察①	8	十二経脈病証②	
9	おもな症状の診察②	9	合同模試④	
10	中間試験	10	合同模試④	
11	整形外科疾患	11	合同模試④解説	
12	整形外科疾患	12	奇経八脈病証	小テスト
13	その他の領域の疾患	13	奇穴	
14	その他の領域の疾患	14	まとめ	
15	期末試験	15	期末試験	1～8, 12～14回

鍼灸学科・夜間部・3年(総合領域Ⅳ)

科目名	総合領域Ⅳ	時間・単位	60時間・2単位・30コマ
担当教員	岸野 庸平・川口 直秀		
教員の実務経験	鍼灸師として鍼灸治療院等で長年勤務した後、専任教員として従事する。		
教育目標	国家試験に合格することのできる総合的学力を身につけることを目標とする。		
授業内容	臨床経験を持つ専任教員が、現場経験を活かした視点で医療概論・公衆衛生学・関係法規・解剖学・生理学・病理学・臨床医学総論・臨床医学各論・リハビリテーション医学・東洋医学概論・経絡経穴概論・東洋医学臨床論・はりきゅう理論等について講義を行う。		
成績評価	<ul style="list-style-type: none"> ・授業への出席が3分の2以上を満たした者についてのみ試験等を実施する。 ・期末試験は授業時間内(原則として授業の最終日)に実施する。 ・再試験は授業時間外に実施する。 ・必要に応じて授業時間内、あるいは授業時間外に中間試験を実施することがある。 ・成績評価にあたっては、①試験等の成績、②出席状況、③授業の受講態度等を総合的に勘案した結果を基に判定する。 ・成績は以下の5段階で評価し、「可」以上を合格とする。 「秀」:90～100点 「優」:80～89点 「良」:70～79点 「可」:60～69点 「不可」:59点以下 		

教科書	著者名	
	出版社名	
参考書	著者名	
	出版社名	

鍼灸学科・夜間部・3年(総合領域Ⅳ)

回	講義内容	備考
1	第1回中間試験	
2	第1回中間試験	
3	第1回中間試験解説	
4	第2回中間試験	
5	第2回中間試験	
6	第2回中間試験解説	
7	第3回中間試験	
8	第3回中間試験	
9	第3回中間試験解説	
10	第4回中間試験(合同模試②)	
11	第4回中間試験(合同模試②)	
12	第4回中間試験(合同模試②)解説	
13	第5回中間試験	
14	第5回中間試験	
15	第5回中間試験解説	
16	第6回中間試験	
17	第6回中間試験	
18	第6回中間試験解説	
19	第7回中間試験(合同模試③)	
20	第7回中間試験(合同模試③)	
21	第7回中間試験(合同模試③)解説	
22	第8回中間試験	
23	第8回中間試験	
24	第8回中間試験解説	
25	第9回中間試験	
26	第9回中間試験	
27	第9回中間試験解説	
28	期末試験	
29	期末試験	
30	期末試験解説	

鍼灸学科・夜間部・3年(総合領域V)

科目名	総合領域V	時間・単位	120時間・4単位・60コマ
担当教員	伊藤 才二 ・ 北林 亜由美		
教員の実務経験	鍼灸師として鍼灸治療院等で長年勤務した後、専任教員として従事する。		
教育目標	2年生終了時までの間に学習した、解剖学・生理学等の基礎医学について、これらを統合した形で再度学習する。それらに基づいて臨床医学に関する知識を確かなものにすることを教育目標とする。		
授業内容	<p>主に、以下の点について学んでいく。</p> <p>①解剖学・生理学などの基礎医学の知識を使用して、臨床医学を理解する。</p> <p>②臨床現場で他の医療資格者との円滑なコミュニケーションの基礎となる現代医学の基礎を復習する。</p> <p>について、鍼灸の現場経験を活かした視点でアドバイスをしながら、実践的な知識および技術を習得させる。</p>		
成績評価	<ul style="list-style-type: none"> ・総合領域V①と②それぞれの授業への出席が3分の2以上を満たした者についてのみ試験等を実施する。・①、②それぞれの授業について60点以上満たした場合にのみ成績評価を行う。 ・期末試験は授業時間内(原則として授業の最終日)に実施する。 ・再試験は授業時間外に実施する。 ・必要に応じて授業時間内、あるいは授業時間外に中間試験を実施することがある。 ・成績評価にあたっては、①試験等の成績、②出席状況、③授業の受講態度等を総合的に勘案した結果を基に判定する。 ・成績は以下の5段階で評価し、「可」以上を合格とする。 「秀」:90～100点 「優」:80～89点 「良」:70～79点 「可」:60～69点 「不可」:59点以下 		

教科書		著者名	
		出版社名	
参考書	病気がみえる	著者名	岡庭 豊
		出版社名	メディックメディア

鍼灸学科・夜間部・3年(総合領域V)

回	講義内容①	回	講義内容①	回	講義内容②
1	人体の構成	21	生理学の基礎	1	感染症
2	循環器系①(心臓)	22	血液	2	消化管疾患
3	循環器系②(動脈、静脈、リンパ系、胎児循環)	23	循環①(心臓)	3	肝・胆・膵疾患①
4	呼吸器系	24	循環②(血管)	4	肝・胆・膵疾患②
5	消化器系①(消化管)	25	呼吸	5	呼吸器疾患①
6	消化器系②(肝臓、胆のう、膵臓、腹膜後器官)	26	消化と吸収	6	呼吸器疾患②
7	泌尿器系	27	代謝	7	中間試験
8	生殖器系	28	体温	8	腎・尿器疾患①
9	内分泌系	29	排泄	9	腎・尿器疾患②
10	神経系①(中枢神経系)	30	内分泌	10	内分泌疾患
11	神経系②(末梢神経、自律神経)	31	生殖と成長	11	代謝栄養疾患
12	感覚器系	32	神経①(神経基礎)	12	循環器疾患①
13	骨格系①(概要、脊柱、胸郭、頭蓋)	33	神経②(中枢神経)	13	循環器疾患②
14	骨格系②(上肢の骨、下肢の骨)	34	神経③(末梢神経)	14	中間試験
15	筋系①(体幹の筋)	35	筋	15	血液・造血器疾患
16	筋系②(上肢の筋)	36	身体の運動	16	神経疾患①
17	筋系③(下肢の筋)	37	感覚器系	17	神経疾患②
18	筋系④(頭頸部の筋)	38	生体の防御機構・ホメオスタシスと生体リズム	18	神経疾患③
19	解剖学試験	39	生理学試験	19	膠原病
20	解剖学まとめ	40	生理学まとめ	20	期末試験